

催し物のご案内

企画展「学芸員の活動報告」

4月18日(土)～5月31日(日)
入場無料

博物館の学芸員や外来研究員など、博物館に集う人たちの活動の様子や成果を展示します。

●野外観察「身近な自然発見講座」

[博物館周辺]

日時／①4月8日②5月13日③6月10日(いずれも水) 各日10:00～15:00
対象／どなたでも(人数制限なし)
事前申込不要、当日博物館集合。雨天中止。

●野外観察「春の野山の草花を観る」

[舞岡ふるさと村(横浜市戸塚区)]

日時／4月18日(土)10:00～15:00
対象／小・中学生とその保護者(学生も可)40人

申込締切／3月31日(火)消印有効

●野外観察と室内実習「境川遊水地化石ウォッチング」

[県立境川遊水地公園(横浜市泉区)と博物館]
日時／4月25日(土)・26日(日)の2日間 10:00～15:00

対象／小学4年生～中学生と保護者、教員30人

申込締切／4月7日(火)消印有効

●講義「カヤツリグサ科スゲ属植物の分類」

[博物館]
日時／4月29日(水・祝)13:30～15:30
対象／高校生～大人30人

申込締切／4月7日(火)消印有効

●野外観察「春の地形地質観察会」

[大磯丘陵(国府津周辺)]

日時／5月3日(日・祝)10:00～15:00
対象／小学4年生～大人40人

申込締切／4月14日(火)消印有効

●野外観察と室内実習「めざせ!昆虫博士」

[博物館と弘法山(秦野市)]
日時／5月5日(火・祝)・6月6日(土)・6月7日(日)・8月8日(土)の4日間 10:00～15:00

対象／小学4年生～大人15人

申込締切／4月21日(火)消印有効

●「博物館対岸の地層レプリカ展示および解説」

[博物館]
日時／5月10日(日)10:00～12:00、13:00～15:00

対象／どなたでも(人数制限なし)

事前申込不要、時間内見学自由。雨天中止。

●野外観察「磯の生きものウォッチング」

[三ツ石海岸(真鶴町)]

日時／5月10日(日)10:00～14:30

対象／小学生と保護者40人

申込締切／4月21日(火)消印有効

●野外観察「海辺の野鳥観察会」

[照ヶ崎海岸(大磯町)]

日時／5月17日(日)10:00～12:00

対象／小学生～中学生と保護者20人

申込締切／4月28日(火)消印有効

●室内実習「骨のかたちを比べよう～おとな編～」

[博物館]
日時／5月24日(日)10:00～15:00

対象／中学生～大人12人

申込締切／5月5日(火・祝)消印有効

●野外観察「初夏の昆虫を探してみよう」

[名古木(秦野市)]

日時／5月30日(土)9:00～15:00

対象／小学4年生～大人25人

申込締切／5月12日(火)消印有効

●室内実習「砂のひみつをさぐる」

[博物館]

日時／6月6日(土)10:00～15:00

対象／小学4年生～中学生12人

申込締切／5月19日(火)消印有効

●室内実習「貝がらのふしぎを調べよう～ホタテの巻～」

[博物館]

日時／7月19日(日)10:00～15:00

対象／小学4年生～大人12人

申込締切／6月30日(火)消印有効



催し物への参加について

申込締切が記してあるものは、講座名・開催日・住所・申込者全員の氏名・年齢・電話番号を明記の上、往復はがき(消印有効)にて郵送、またはホームページからお申込ください。定員を超えた場合は抽選ですが、抽選で落選した方に対し、キャンセル待ちの対応を行います。希望される方は、お申し込み時にその旨をご記入ください。なお、講座により傷害保険に加入していただくことがあります(1人・1日50円)。

問合せ先

神奈川県立生命の星・地球博物館

企画情報部企画普及課

所在地 〒250-0031

小田原市入生田499

電話 0465-21-1515

ホームページ

<http://nh.kanagawa-museum.jp/index.html>

ライブラリー通信

高桑正敏の解体虫書

しのぎきよこ
篠崎淑子(司書)

高桑さんをご存知のとおり、当博物館で学芸員として活躍され、また最後の6年間は学芸部長を務められ、2008年3月に定年退職されました。そのあと4月からも学芸員として忙しく働いています。2008年12月27日、横浜で高桑さんの定年退職と還暦を祝う会が開かれ、それを記念して「^{はなの}華飲み会」から『^{たかくまさとし}高桑正敏の解体虫書』が^{かいたいちゅうしょ}発行されました。

虫に関する本はたくさんありますが、虫屋とその周辺を掘り下げた本はあまりないのではないのでしょうか。そういう意味でこの本は非常に貴重です。

高桑さん自身による、小学生時代から小田原の博物館時代までの回想記。そしてご自身による採集記。さらに虫屋さんによる思い出の寄稿文。さらに50人による「高桑さん、還暦と退官おめでとうございませう！」と題された思い出と爆笑のエッセイの数々。

このエッセイのなかでも、「女性虫屋」の項は、ほかに比べてとても甘やかで、少しトーンが違うような気がします。高桑さんがいかに「女性虫屋」に愛されていたかがよくわかります。

編集後記にも書かれていますが、これから50年後、100年後にも虫の好きな人達がいれば、その人達がこの本を読んで、「昔はこんなに熱く面白い時代があったんだ」と思ってもらえる日が来るといいと思います。それまでこの本は資料として、ライブラリーで大事に保管していきたいと思っております。

『月刊むし』2009年2月号にも、「一大イベントだった“華飲み会”」という記事が写真入りで紹介されています。どちらもライブラリーで閲覧することができます。